

公開シンポジウム 熱帯へ行こう！

国際協力・国際教育・国際研究の楽しさ

2025

6.29(日)

13:00-16:30
(JST)

参加費
無料



熱帯×フィールド×あなた！

リアルな国際協力・研究・教育の世界を体験しよう！

将来、国際協力や研究、活動の現場に立ちたい人に



会場 オンライン(Zoom)+九州大学伊都キャンパス ウエスト5号館232講義室

参加方法 <会場>当日会場にてお申込みください

<オンライン> QRコードにて6月27日(金)午後5時まで



オンライン申込



会場アクセス

第1部:リアルと向き合う:熱帯での協力・研究・生活

海外で活躍するセンパイたち(花村美保・虫明悦生・加反真帆・河地一樹)

第2部:海外へ導く教育:大学におけるフィールド学習の試み

海外へ導くセンセイたち(藤原敬大/岩野純奈・寺内大左)

※ 司会:百村帝彦(九州大学熱帯農学研究センター)

主催:日本熱帯生態学会

九州大学熱帯農学研究センター(設立50周年記念事業)

後援:九州大学大学院農学研究院

九州大学大学院地球社会統合科学府/比較社会文化研究院



日本熱帯生態学会
The Japan Society of Tropical Ecology



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



農学部
FACULTY OF AGRICULTURE



地球社会統合科学府



熱帯は、自然や文化が豊かな一方で、気候変動や地域づくりの課題にも直面しています。一方で、大学生の海外渡航は減少傾向にあり、現場で学ぶ機会が少なくなっています。

このシンポジウムでは、熱帯の現場で活躍する方々から、リアルな経験や、フィールドでの本音や楽しさを語ってくれます。「海外に出てみたい」「何か始めてみたい」そんな皆さんの参加をお待ちしています。

13:00-13:10	開会あいさつ・趣旨説明	
	第1部:リアルと向き合う:熱帯での協力・研究・生活	
13:10-13:40	講演① 国際協力の現場で10年働いて見えてきた、49の大変さと51の楽しさ	花村 美保
13:40-14:10	講演② ラオス在住30年,“タマサート(自然)”な暮らしはどこへ?	虫明 悦生
14:10-14:40	講演③ 熱帯地域におけるフィールドワークの魅力と課題—インドネシア・ジャワ島およびスマトラ島での調査経験から—	加反 真帆
14:40-15:10	講演④ このままじゃ生きていけない..内定ゼロからカンボジアで挑戦に至るまで	河地 一樹
15:10-15:25	休憩	
	第2部:海外へ導く教育:大学におけるフィールド学習の試み	
15:25-15:50	講演⑤ 学生を主体とした国際交流プログラムの取り組み:インドネシア森林サマーコースとIFSAQ設立	藤原 敬大 岩野 純奈
15:50-16:15	講演⑥ 「ものの見方」を変える海外フィールド教育	寺内 大左
16:15-16:30	総合討論	

※ プログラムは予告なく変更になることがあります

花村 美保	一般社団法人 日本森林技術協会 専門技師
	大学時代、他学科のタイ・カンボジア海外実地研修に潜入して初海外。現場の魅力にはまる。また、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)プロジェクトへの参加により、現地の人と協働して1つのことを成し遂げるこの魅力、国際協力・国際開発分野で活躍する日本人のかつよさに惹かれ、開発コンサルタントに。以来10年近く、山あり谷あり汗と涙と鼻水あり、転職を1度経験しながら、アジア・アフリカ・南米にて国際協力業務に従事している。
虫明 悦生	インハウスコンサルタント (JICAラオス事務所勤務)
	たまたま訪れたタイにはまり、その延長でラオスに居着き、いつの間にか30年が経ちました。1990年代のラオス全土の旅行、生業・生活誌や土地利用、村々の独自製品に関する調査・研究、民謡採録とケーン(ラオス笙)演奏、織物復興の手伝いやオブジェクトシアターへの参加…。近年は、対ラオスODA小規模支援や留学事業にも携わってきましたが、“ラオスの人と自然との関わり”への興味は尽きることがありません。
加反 真帆	九州大学大学院農学研究院 日本学術振興会特別研究員(PD)
	2018年4月 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(5年一貫制博士課程) 入学, 2020年4月~2023年9月 学振特別研究員(DC)として「泥炭社会の変動:インドネシア・リアウ州の事例」に関する研究に従事。2024年3月 博士号(地域研究)取得, 2024年4月~学振特別研究員(PD)として「再資源化ガバナンスの持続性に関する実証的研究:インドネシアの泥炭地を対象に」に関する研究に従事
河地 一樹	Kumae 養鶏・コオロギ事業者 牛タン屋店長
	学生時代に休学しカンボジアのプロサッカークラブにてインターン。帰国後就活をするも失敗。大学卒業後はベトナムのサッカークラブにて運営とコーチの仕事に挑戦。コロナ禍真っ最中により外出不可、上司とのトラブルにより半年で頓挫。帰国後アルバイトでお金を貯め、Kumaeで挑戦するために再びカンボジアへ渡航。Kumaeが活動する村にて養鶏、コオロギ事業に挑戦中。移住して半年後に、Kumae運営のレストラン牛タン屋Re:与作を再オープンし運営。
藤原 敬大	九州大学大学院農学研究院 准教授
	専門は森林政策学、林業経済学。インドネシアを主なフィールドとして森林政策全般、社会林業、ランドグラブ、ポリティカル・フォレストに関する研究を行っている。また東南アジアを中心とした留学生(修士・博士課程)の指導も行っている。2023年度からガジャマダ大学森林学部やCIFORとも協力して森林サマーコースを実施し、日本人学生らをインドネシアへ引率している。
寺内 大左	筑波大学人文社会系 准教授
	筑波大学人文社会系准教授。環境社会学・環境人類学を専門とし、インドネシアの熱帯林保全と農村開発に関する研究に取り組む。2017年からは学部生を対象とした海外フィールド教育にも携わる。著書に『開発の森を生きる』(新泉社、2023年)、共著に『人類学者たちのフィールド教育』(ナカニシヤ出版、2021年、「自己変容型フィールド調査の試み」執筆)などがある。